

南伊豆の早咲きサクラ

誌名	静岡県農業試験場研究報告 = Bulletin of Shizuoka Agricultural Experiment Station
ISSN	0583094X
著者名	村田, 治重
発行元	静岡県農業試験場
巻/号	42号
掲載ページ	p. 67-75
発行年月	1997年12月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



南伊豆の早咲きサクラ

村田 治 重*

I 緒 言

伊豆環境緑化推進協議会は、1972年に当時の静岡県下田林業事務所（現静岡県伊豆農林事務所）、静岡県賀茂農業改良普及所（現静岡県伊豆農林事務所）、静岡県有用植物園（現静岡県農業試験場南伊豆分場）及び関係市町村により構成され、伊豆地域の行政、普及、研究の各機関が一体となって伊豆地域の緑を守り育てることや、特色ある花を素材として地域振興を図る目的で発足した。

古くから、伊豆半島にはオオシマザクラ（大島桜 *Prunus lannesiana* Wilson var. *spesiosa* Makino）、ヤマザクラ（山桜 *P. jamasakura* Sieb.）、マメザクラ（豆桜 *P. indeca* var. *Thunb.*）及びエドヒガン（江戸彼岸 *P. pendura* form. *ascendens*）が自生している^{1, 2, 4)}。このうち、オオシマザクラは伊豆半島から伊豆七島にかけて多く見られ、随所に林を形成しているところもある^{1, 4)}。また、ソメイヨシノ（染井吉野 *Prunus yedoensis* Matsum. cv. *somei*）、シュゼンジベニカンザクラ（修善寺紅寒桜 *P. × kanzakura* Makino cv. *Rubescens*）、カンザクラ（寒桜 *Prunus × Kanzakura* Makino）、オオカンザクラ（大寒桜 *P. × Kanzakura* Makino cv. *Oh-kanzakura*）、カンヒザクラ（寒緋桜 *P. campanulata* Maina.）、シナミザクラ（支那実桜 *P. pseudocerasus* Lindl.）などの既往の品種^{1, 2, 4, 8, 9, 10, 11, 12, 13)}以外に多くの未知の系統を含む多種類のサクラが見られる。

そこで、伊豆環境緑化推進協議会では、特色あるサクラを選定して植栽を推進することは、伊豆地域の観光さらには農林業にも寄与するとの観点に基づき、自生種の中からソメイヨシノより開花が早く観賞に適するサクラ類の発掘と、その生育実態の調査を行った。その結果、目的に合う数種のサクラが地域内の各地に分布していることが分かり、最近ではマスコミにも早春の話題として報道されるようになった。特に、河

津町ではカワヅザクラ（河津桜）を1975年に町の木に制定して植栽を始め、1988年には同町内に約7千本の植栽が完了した。1997年の開花期間中の河津桜まつりには、約20万人の人出があり、サクラが観光資源となることが実証され、今後一層花による地域の振興が期待されている。

この様に南伊豆の早春を代表するものとして、カワヅザクラを中心にサクラが大変注目され、さらにこれらのサクラの由来が話題になっていることから、南伊豆地域の特色あるサクラの研究を取りまとめることは意義のあるという強い勧めがあった。環境緑化という一連の試験として取り組んだ当時は研究課題としては未知の分野であり、手法的にも未熟な点も多いが、南伊豆の早咲きサクラの特徴や由来について二、三の知見をえることができたので発表する次第である。

調査に当たり適切な指導と助言、協力をいただいた方々、取りまとめに尽力された静岡県農業試験場水戸喜平普及課長、同農業試験場南伊豆分場吉田睦敏分場長、サクラの写真を提供して頂いた静岡県病害虫防除所池田二三高所長、積極的にサクラの植栽を推進された関係者の方々に感謝の意を表する。

II 材料及び方法

1. 南伊豆地域における早咲きサクラの調査

地域振興資源として、ソメイヨシノより開花が早く観賞価値の高いサクラ類の実態調査を行い、その中からさらに特色のある系統を選定し、普及する上から品種名を付けた。

1972年から1974年の開花時期に、下田市及び賀茂郡の地域内を定期的に調査し、早咲きサクラの実態把握を行い、目的に合致するサクラ30本について品種、分布、来歴、生育状況、開花状況、花の形態及び樹形を調べるとともに、それぞれの原木と思われる木を特定した。

2. カワヅザクラ（河津桜）の特性調査

*（現下田市河内843 元農業試験場南伊豆分場）

カワヅザクラの来歴を推定するとともに、その生育特性を明らかにするため実生繁殖を行い調査を実施した。

(1) 試験1 原木カワヅザクラからの実生木による特性試験

1977年6月にカワヅザクラの原木から種子を約500粒採種し、翌年の2月まで冷蔵して南伊豆町石廊崎の伊豆振興センター南伊豆農場(静岡県有用植物園の後身、現在は静岡県農業試験場南伊豆分場)内に播種した。その後7本の実生木が生育したので、1984年から1985年に実生7年生木の特性を調査した。

(2) 試験2 増殖木カワヅザクラからの実生木による特性試験

1984年に南伊豆農場大久保試験地に、植栽してある3本のカワヅザクラから別々に採種し、6月から翌年の2月まで冷蔵庫に保管した。2月に取り出して南伊豆農場内露地圃場に播種し、その実生木の生育状況を調査した。

III 調査結果

1. 南伊豆における早咲きサクラの調査

1974年に伊豆環境緑化推進協議会は、当初の目的に合致した7種類のサクラ、即ちカワヅザクラ(河津桜)、ミナトザクラ(湊桜)、オキチザクラ(お吉桜)、ベニカンザクラ(紅寒桜)、オオシマ早生(大島早生桜)、オオカンザクラ(大寒桜)、カンザクラ(寒桜)を選定した。この中では、既存の品種としてベニカンザクラ、カンザクラ及びオオカンザクラが含まれたが、新たに開花特性や形態の特徴から既往のサクラとは異なる

系統として、カワヅザクラ、ミナトザクラ、オキチザクラ、オオシマ早生を選定して普及上の品種名を付けた。これらのサクラの開花特性は、第1～3表、及び写真1～6に示した。

(1) カワヅザクラ(河津桜)

1973年に伊豆環境緑化推進協議会は、静岡県賀茂郡河津町田中457の飯田典延氏宅にあるサクラをカワヅザクラ(河津桜)と命名し原木とした。この来歴は、河津町峰のキネマ劇場の隣家(調査時にはすでに存在していなかった)の品種不明のサクラの木の下に生育していた木を、飯田氏の亡父が1955年頃に譲りうけて現在地に定植した。定植当時は推定5～6年生の木であった。開花時期は早く、花がきれいなこともあって近隣に注目されるようになった。なお、この原木は地際部付近から発生する枝條の特性から、無接木であると考えられる。

1973年の調査時の樹高は7m、樹巾7m、幹周85cmであった。開花特性は、1973年の開花期は1月中旬～2月下旬で、1974年は2月上旬～3月上旬であった。開花期間は約1カ月と長い、年により開花期に2週間程度の差が見られた。葉の出方は花より遅く、開花末期に発生し、発生時から緑色で、成葉は厚く、広倒卵形で先端は尖り、鋸歯の先はあまり伸びていなかった。樹形は地上約50cmで幹が分かれ、枝は横に広がる性質が見られた(第1表)。

花の形態的特徴は、花色は蕾は紅色が強く、満開時には淡紅色、花径は33mmで大きい。花はやや散房花序で3～4花が付き、花柄及び小花柄が長く、開花時にりん片は花柄に残った(第2、3表)。

第1表 早咲きサクラの各品種の開花時期及び樹形

品 種	調 査 場 所	開 花 時 期		樹 姿	花と葉の出方	若葉の色
		1973年	1974年			
カワヅザクラ	河津町田中	1月中旬～ 2月下旬	2月上旬～ 3月上旬	開	花先	緑
ミナトザクラ	南伊豆町湊	2月下旬	3月上旬	立	花先	赤→緑
オキチザクラ	下田市河内	3月中～下旬	3月下旬～ 4月上旬	やや開	同時	赤
オオシマ早生	下田市箕作	3月中～下旬	3月下旬～ 4月上旬	やや開	同時	緑
ベニカンザクラ	松崎町石部	-	2月下旬～ 3月中旬	立	花先	緑
カンザクラ	下田市白浜	1月下旬～ 2月中旬	1月下旬～ 2月中旬	立	花先	黄→緑
オオカンザクラ	下田市東本郷	3月中～下旬	3月上～下旬	開	花先	黄→緑

第2表 早咲きサクラの各品種の花の形態

品 種	花の直径 (mm)	雄しべの本数 (本)	花 筒		花柄長 (mm)	小花の花柄長 (mm)	一芽の花房数 (本)	一房の花数 (本)	がく片長さ(mm) 巾(mm)	花弁長さ(mm) 巾(mm)
			長さ (mm)	巾 (mm)						
カワヅザクラ	33.0	42.5	7.7	3.7	18.0	20.1	3.4	3.7	7.0	14.6
ミナトザクラ	28.7	33.5	6.2	4.8	4.4	18.6	3.2	3.6	5.0	15.9
オキチザクラ	34.1	44.2	7.2	2.9	16.3	17.1	2.9	2.8	6.5	11.2
オオシマ早生	33.5	47.9	7.4	3.0	15.9	12.8	3.6	4.5	4.0	14.6
ベニカンザクラ	31.0	41.0	7.6	4.3	13.7	23.1	2.8	4.1	8.0	15.1
カンザクラ	28.9	40.5	6.5	3.4	4.5	17.7	1.2	3.0	2.5	18.1
オオカンザクラ	29.2	35.2	7.4	4.6	12.0	12.2	3.3	3.8	8.0	11.6
									2.5	17.0
									6.5	13.4
									4.0	16.3
									5.5	13.7
									4.0	14.6
									5.5	16.6
									4.0	14.8

第3表 早咲きサクラの各品種の花の特徴

品 種	花 毛	花柱毛	花 色	花 序
カワヅザクラ	無	無	蕾は紅色が強い。満開時には淡紅色	やや散房
ミナトザクラ	有	無	わずかに淡紅色を帯びた白色	散 形
オキチザクラ	無	無	蕾は淡紅色をおびる。満開時はわずかに淡紅色を帯びた白色	やや散房
オオシマ早生	無	無	蕾は白～わずかに淡紅色を帯びる。満開時は白色	散 形
ベニカンザクラ	無	無	蕾は紅色が強い。満開時には淡紅色	散 形
カンザクラ	無	無	わずかに淡紅色を帯びた白色	散 形
オオカンザクラ	無	無	わずかに淡紅色を帯びた白色	散 形

サクラは自家不和合性の強い樹木とされている³⁾。この原木の近くには同一時期に開花するサクラは見当たらなかったが、結実は良好であった。熟果は赤身を帯び、1974年の調査では5月上旬より熟したが、その時点ではまだ未熟果も含まれ熟期は揃わなかった。熟期の差は約20日と考えられ、果実の大きさはオオシマザクラより大きかった。

なお、カワヅザクラ（河津桜）は1968年頃に伊東市富戸の勝又光也氏が増殖に着手し、苗木が育成され、1974年3月に河津町、下田市等で約2,000本の植栽が行われた。引続いて当時の伊豆振興センター南伊豆農場の育苗配布事業により、さらに町の木として河津町の増殖体制が確立され大量の植栽が行われた。

(2) ミナトザクラ（湊桜）

1974年に伊豆環境緑化推進協議会は、静岡県賀茂郡南伊豆町湊680の大野拓氏宅にあったサクラをミナトザクラ（湊桜）と命名して原木とした。1963年に大野

氏が本家より現在地に転居した時、木はすでにそこに生育していた。

1973年の調査時の樹高は6m、樹巾は4mで、約20年生と推定された。開花特性は、1973年は2月上旬に花芽が現れ、2月下旬から3月上旬に開花し、1974年の開花始めは3月上旬であった。開花枝からの葉の発生は落花後であった。葉の表面には軟毛があり、若葉の色は赤色で後に緑化し、成葉は暗緑色、鋸歯はあまり尖っていなかった（第1表）。

花の形態的特徴は、花色はわずかに淡紅色を帯びる白色、花序は散形で3～4花が付き、枝の先端に群生して開花した。花柄は短く、暗緑色で粗毛があり、開花時にりん片は落ちた。がく筒は円筒状、雌心は雄心より短く無毛、花弁は巾が狭く、満開時にはがく片の内側が花弁の間にのぞくので、花は赤味が強く帯びて見える（第2、3表）。

幹は立性で（第1表）あまり太くならず、根元より

短い気根が発生し、萌芽性は良好であった。挿し木による発根はよく、繁殖は容易であった。

1998現在、ミナトザクラの原木はなくなっているが、静岡県農業試験場南伊豆分場大久保試験地には原木から挿し木をした木が生育している。

(3) オキチザクラ (お吉桜)

この原木の来歴は、下田市箕作559-3の小林吉太氏(春吉氏の父)が、1920年代にオオシマザクラの早生種を増殖し、自家の山地に植えた木が開花した時点で、この中から花色がわずかに淡紅色を帯びる白色の木を選抜した。1973年の調査時には、下田市箕作水久戸には、原木の40年生のサクラとそれから増殖した20年生樹が20本生育していることを確認した。

一方、小林吉太氏は1958年に原木から増殖した3年生苗を国道414号線沿いの稲生沢川右岸の土手、即ち下田市河内お吉ヶ淵に定植した。これがオキチザクラと称せられ今日に至っている。

調査時に、原木は花を枝物として切って出荷していたため、形態は自然状態でなかったことから、伊豆環境緑化推進協議会はお吉ヶ淵のサクラを調査木とした。お吉ヶ淵のサクラは、1973年の調査時には、いずれも樹高は7mで、樹巾は7m、幹周は1mで、13本の生育が確認できた。

開花特性は、開花時期が3月中旬～下旬で、開花と同時に赤褐色の葉芽が伸び、開花初期の樹冠は赤芽が目立つが、満開時には花で埋まる。葉の発芽当初は赤味を帯びていたが、4月下旬には緑色となり、葉裏は白味がかかる(第1表)。オオシマザクラの早生種よりやや遅れて開花をする。

花の形態的特徴は、花色は蕾は淡紅色をおびるが、満開時にはわずかに淡紅色を帯びる白色となる。花柄がよく発達し、花はやや散房花序ではぼ2～4花が付く(第2表)。

(4) オオシマ早生 (大島早生桜)

伊豆半島から伊豆七島にかけてはオオシマザクラの自生地で、この地の野生のサクラの大部分は、オオシマザクラの系統と考えられる。

1920年代(大正末期)に、下田市箕作559-3の小林吉太氏は、下田市横川「つきや」所有の山林から早咲きのオオシマザクラを選抜し、それを1923年から1928年にかけて接木により増殖し、この苗を南伊豆地域の各地に植栽した。このオオシマ早生は、調査時点では下田市稲穂小学校、旧須原小学校、須崎県道、東伊豆町熱川及び河津町下河津地区に生育していた。また、下田市箕作高戸倉の原野(共有林)には、約40年生の木

が約100本生育し大木となっている。これらのサクラは選抜当時に植栽したか、これをもとに増殖したと思われる。

これらの中では稲穂小学校のサクラが最も大木であり、伊豆環境緑化推進協議会は、これを原木としてオオシマ早生(大島早生桜)と命名した。1973年の調査時の樹高は12m、樹巾は15m、幹周は2mで生育本数も多かった。

オオシマ早生の開花時期は生育地によって多少異り、海岸地域は早く山間地では遅い。即ち、1973年の開花期は、海岸地帯の下田市須崎では2月中～下旬であったが、山間地域の同市椎原では3月中～下旬であった。発芽は開花と同時に始まり、発芽から若葉に至るまで緑色のままである(第1表)。花色は蕾は白からわずかに淡紅色を帯びるが、満開時には白色となり、散形花序で4～5花が付く。このオオシマ早生の開花は、当然オオシマザクラより早い、それ以外の特性はオオシマザクラとほぼ同じであった(第1～3表)。

(5) ベニカンザクラ (紅寒桜)

賀茂郡南伊豆町から松崎町にかけて、3月上旬に咲く美しい淡紅色のサクラがある。このサクラは南伊豆町青市の龍雲寺に5本、同町上小野の安楽寺に約10本、さらに、松崎町石部の禅宗院に4本と寺院に大木があり、他に、南伊豆町では下賀茂、二条、手石、松崎町では石部、峰、大沢等に生育が確認され、調査の結果、いずれも既往のベニカンザクラ(紅寒桜)であった。

これらのサクラの中では、松崎町禅宗院地内に生育する株が最も古いと思われた。調査時の樹高は15mで、樹巾は10m、幹周は1.4mであった。開花特性は、開花時期が3月上旬～中旬で、開花期間は20日程度(第1表)、葉は開花末期に発生し、緑色で、成葉は厚く、鋸歯は鋭くない。このサクラの樹形は立性で、成木は株元より萌芽する性質が見られた。

花の形態的特徴は、花色は蕾は紅色が強く、満開時には淡紅色、花柄が発達し散形花序で2～4花が付く(第2、3表)。

(6) カンザクラ (寒桜)

伊豆地域のカンザクラは1月下旬～2月に開花し、熱海市に多く植栽されているアタミザクラ(熱海桜 *Prunus* × *Kanzakura* Makino cv. *Atamizakura*)と同一と思われる^{1, 10)}。南伊豆地域では、下田市白浜202の鈴木満郎氏宅(横浜市在住)のサクラが有名であり、当地域では雪見桜あるいは2月桜と呼ばれている。この株は先代の原太郎氏が、1929年に横浜より苗を購入し植付けたといわれている。鈴木氏宅のサクラは、

調査時には2本生育し、その樹高は10mほどで、開花時期は、1月下旬～2月中旬であった。花色はわずかに淡紅色を帯びる白色で、散形花序に3～5花を付け、葉は開花末期に発生して黄色から緑色となった。

なお、松崎町那賀川の堤防には、旧海軍の関係者で組織する「さくら会」の人達により1950年前半に植樹された、カンザクラの系統と思われるサクラが約30本あり2月～3月に開花する。このサクラは、樹形、花形、葉の形態及び開花時期の変異が大きく、品種は断定できなかった。

(7) オオカンザクラ (大寒桜)

オオカンザクラ (大寒桜 *Prunus* × *Kanzakura* Makino cv. Oh-kanzakura) は伊豆地域では、伊東市、熱海市に植栽が多い^{5, 10)}。その中でも伊東市の国立温泉病院の木は古く、この木が増殖の中心となって広まったといわれている。南伊豆地域では下田市の伊豆急下田駅周辺等で2～3カ所に見られるが、これらは伊豆急開通時に植えられた木である。

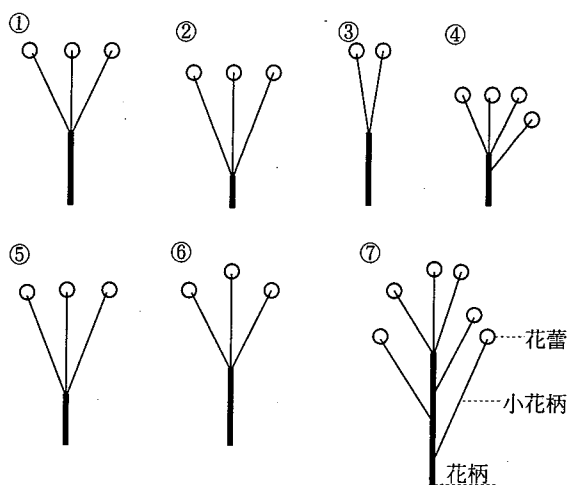
開花時期は3月上旬～中旬でほぼ安定し、年による開花時期の変動は少なかった(第1表)。花色はわずかに淡紅色を帯びる白色で、葉は開花末期に発生して黄色から緑色となる。

2. カワツザクラ (河津桜) の特性調査

(1) 試験1 原木カワツザクラからの実生による特性試験

生育していた7本の実生木の開花時期は早咲き(2月)が1本と、普通咲きは6本であった。

早咲きの木(No. 4)の樹形は立性、樹皮は柴褐色、皮目が散在し、樹形や花型などの形態はベニカンザクラに近似した。一方、普通咲き6本についての開花時期は、オオシマザクラと同一時期であり、樹形、樹皮及び葉型もオオシマザクラに近似したが、それぞれ花の付き方、花柄、小花柄の長さには差があった(第4



第1図 カワツザクラ実生の花序の模式図(1987)

①～⑦は第4表の固体番号

表, 第1図)。

(2) 試験2 増殖木カワツザクラからの実生による特性試験

増殖木カワツザクラから採取した種子は、オオシマザクラに比べて大きく、果肉にはオオシマザクラより著しい苦味があった。また、冷蔵庫から取り出して播種する時点で発根が始った個体が見られた。これに対してオオシマザクラでは発根は見られなかった。

増殖木カワツザクラから実生育成した結果、1年後における生育率は37.9%で、オオシマザクラの93.0%に比べ劣ったが、木ごとの生育の差は見られなかった。また、実生苗を芽の活動時期を1～4に分けて生育状況を調べた結果、早い木は1月中旬から芽の活動は始まったが、2月1日にはすでに葉を出した木から休眠状態の木まであり、木による差が大きかった。親木のカワツザクラより芽の活動開始時期の早い木が約16%見られた(第5表)。また、実生苗を芽の活動時期を1～4に分けて生育状況を調べた結果、芽の活動が最

第4表 カワツザクラの実生7年木の形態

実生個体番号	樹高 (mm)	幹周 (cm)	花の直径 (mm)	花弁長さ (mm)	花弁巾 (mm)	一房の花数 (本)	花柄長 (mm)	小花柄長 (mm)	開花時期 月・旬
1	6	29.5	41	20	15	3.3	18	32	3月下旬～4月上旬
2	2	9.5	40	18	15	2.8	5	30	3月下旬～4月上旬
3	3	11.2	41	21	16	2.0	22	37	3月下旬～4月上旬
4	7	41.5	32	13	16	3.8	14	21	2月
5	4	24.7	36	18	15	3.8	14	36	3月下旬～4月上旬
6	5	15.7	33	17	13	3.7	23	41	3月下旬～4月上旬
7	7	38.0	34	19	11	6.1	38	37	3月下旬～4月上旬

注) 1985年の開花時に調査。花の形態の数字は20個体の平均

第5表 カワヅザクラ実生生育率および芽の時期別とそれに該当する苗の割合

採種個体	生育率 (%) [*]	芽の活動時期 [*] と該当する苗の割合 (%)				芽の活動の平均
		1	2	3	4	
A	36	63.9	5.5	16.7	13.9	1.81
B	37	54.1	13.5	18.9	13.5	1.92
C	39	48.7	23.1	7.7	20.5	2.00
平均	37.9	55.6	14.0	14.4	15.9	1.91
オオシマザクラ	93.0	100.0	0	0	0	1.00
カワヅザクラ	—	0.0	0	100.0	0	3.00

注) 1986年2月1日調査。*:100粒をは種後の生育率 (%)

** : 1は、芽が活動していない (オオシマザクラの状態)
2は、やや芽が活動を開始した
3は、芽は活動を開始した (カワヅザクラの状態)

第6表 カワヅザクラ実生苗の活動時期別とそれに該当する苗の樹高

採種個体	平均樹高 (cm)	芽の活動時期 [*] とそれに該当する苗の樹高 (cm)			
		1	2	3	4
A	36.6	37.0	47.5	36.6	32.0
B	42.8	39.4	57.0	45.1	26.8
C	49.7	45.1	68.5	47.7	38.5
平均	43.0	40.5	57.7	41.5	32.4

注) 1986年2月10日調査

* は第5表と同一の基準

も進んだ4に該当する苗は平均32.4cmであり、樹高は芽の活動の進んでいない1~2と比較して小さく、その後の観察でも生育不良となることが多かった (第6表)。

IV 考 察

伊豆半島にはオオシマザクラ、ヤマザクラ、マメザクラ及びエドヒガンが自生し、それらの中には、交雑種や変異種と想定される木も多い^{1, 2, 4)}。また、ソメイヨシノ (染井吉野) を初めとして、カンヒザクラ (寒緋桜 *P. campanulata* Maima.)、シナミザクラも見られ、すでにこの地域はサクラ類の豊富な所として注目されていた^{1, 2, 4, 8, 9, 10, 11, 12, 13)}。これまでも、中井は石廊崎で発見したサクラをシオカゼザクラ (汐風桜 *P. spesiosa* Nakai = *P. idzuensis* Nakai) と命名し¹⁰⁾、古里は1968年に南伊豆町で発見したサクラをミノカケザクラ (蓑掛け桜 *P. lannesiana* Wilson var. *spesiosa* Makino) と命名している¹⁰⁾。今回の調査では、シオカゼザクラの原木は、旧静岡県有用植物

園で確認した。しかし、ミノカケザクラは確認できなかった。特に、伊豆半島に自生しているオオシマザクラの中には、開花時期の早晚、花色の濃淡及び花型等で多くの変化が見られるので^{1, 2, 4, 8, 12, 13)}古くからサクラに興味のある地元の有志により、それぞれ特徴のある系統が選抜されたり、品種として確認されている木もあり、多種多様なサクラが見られる。

カワヅザクラは、花の形態、葉型及び導入経過等の現地における調査の結果、カンザクラ系とオオシマザクラの雑種と推察したが、実生育成による試験の結果から、カンザクラに似た個体とオオシマザクラに似た個体が出現したことにより、両者の雑種である可能性が非常に高いと思われた。実生育成の個体を見ると、カワヅザクラより発芽の早い個体が出現するが、早生の個体は晩生の個体に比べ小さく、その後の観察でも生育は悪い傾向が認められているので、今後早咲き優良個体の維持・育成には、栄養繁殖を図るなど管理面で注意する必要と思われる。

なお、このサクラは、田村・井山、角田・船山によっても同様の記述がなされ、カワヅザクラ (河津桜 *Prunus lannesiana* Wils. cv. *Kawazu-zakura*) として報告されている^{1, 10)}。ただし、このサクラの名は当然原木のある河津町に由来すること、地元としても当初からカワヅザクラの文字を使用し、現在もカワヅザクラとして普及していることから、本報告においてもカワヅザクラとした。

ミナトザクラは、ケイオウザクラ (敬翁桜 *Prunus × subhirtella* Niq. cv. *Keiou-zakura*) のようにシナミザクラ (支那実桜 *P. pseudo-cerasus* Lindl.) の雑種のサクラと類似する。原木の付近には、シナミザクラとベニカンザクラが生育していたので、これらの交雑種と考えられた。

1920年代に、下田市の小林吉太が自生のオオシマザクラから選抜した数系統のサクラは、すでに下田市河内お吉ヶ淵、下田市立稲梓小学校、下田市立旧須原小学校、下田市須崎県道、賀茂郡東伊豆町熱川及び賀茂郡河津町下河津地区に広く植栽されてあった。このうち、1974年に伊豆環境緑化推進協議会は、お吉ヶ淵のサクラをオキチザクラ (お吉桜) と命名し、下田市稲梓小学校等に植栽されている早咲きサクラを、オオシマ早生 (大島早生桜) と命名した⁵⁾。

オキチザクラはオオシマ早生よりやや遅れて開花することを確認したが、樹冠全体は花で埋まり、美しい淡紅色の花が特徴であった⁵⁾。また、このサクラの育苗を補助した方の記憶から、系統的にはヤマザクラに

近いオオシマザクラであると推察された。

ベニカンザクラ（紅寒桜）は、樹形、開花時期、結実しないこと等、カワヅザクラと異なるが、花形はほぼ同じであるため、カワヅザクラと同じ系列のサクラに入ると推察された。また、このベニカンザクラは、シュゼンジベニカンザクラ（修善寺紅寒桜）、あるいはシュゼンジカンザクラ（修善寺寒桜）と報告されている品種^{1, 13)}と形態の比較調査から同一と考えられた。原木とされる田方郡修善寺町修禅寺のサクラと、松崎町石部の禅宗院のサクラを比べてみた結果、石部の方が樹齢は古く大木であった。このサクラは今回の調査では寺院に多く発見された。各寺院とも曹洞宗の寺であり、禅宗院、龍雲寺、安楽寺の3寺は非常に関係が深く、また、昭和初期禅宗院で普山式が行われた時に苗木を育成し配布したとの言い伝えもあり、この時代に各地に植えられたと推察された。

早咲きサクラの特性を検討する場合、開花時期は特性の中で大きなウェイトを占めている。今回は調査木が少なかったが、多くのサクラは年次により開花の早晚が見られ、気象の影響を受けやすいことがうかがわれた。しかし、オオカンザクラのように種類によっては、年次変動の差が比較的少ないサクラも見られ、開花生態は気温型と季節型の区分が可能と思われた。

今回の調査により、伊豆地域特有と思われる系統には品種名を付けたが、ここに取り上げた南伊豆地域の観賞価値の高い7種類の早咲きサクラは、いずれもオオシマザクラに関係の深いサクラであった。

今後これらのサクラを観光資源として活用を図るには、開花特性についてさらに広く詳しい検討が必要のほか、開花に及ぼす気象的地理的要因を解明し、地域ごとの開花時期の長期予測法を確立することも重要と考える。また、これらのサクラの来歴、種類および品種特性等についてなお一層科学的に解明し整理することは、サクラの学術的な価値のみならず、観光資源や産業的にも大きな意義のあることと思われる。

V 摘 要

1. 南伊豆地域一帯に植栽されている早咲きサクラについて調査を行った結果、ソメイヨシノより開花が早く観賞に適するサクラとして、カワヅザクラ、ミナトザクラ、オキチザクラ、オオシマ早生、ベニカンザクラ、カンザクラ及びオオカンザクラの7種類を選定した。このうち、カワヅザクラ、ミナトザクラ、オキチザクラ、オオシマ早生の4種類は南伊豆

地域の特有の系統と考えられるので普及上から品種名をつけた。ベニカンザクラ、カンザクラ及びオオカンザクラの3種類は既往の品種であった。これらのサクラは観光資源や地域振興の上で重要なものと位置付けられたので、それぞれの分布、来歴、開花特性を明らかにした。

2. 最も普及性の高いサクラとしてカワヅザクラが上げられた。カワヅザクラは2月に開花し、花は大きく淡紅色であり、結実性は高かった。
3. その由来は、現地調査と実生による育成個体はオオシマザクラ系とカンザクラ系に分離したことなどから、両者の自然交雑種と推定された。
4. 実生育成個体は、発芽時期、開花期、花型に大きな変異が見られた。また、早生個体はその後の生育は悪い傾向があり、今後早咲き優良個体の維持・育成には栄養繁殖を図る必要があると思われる。

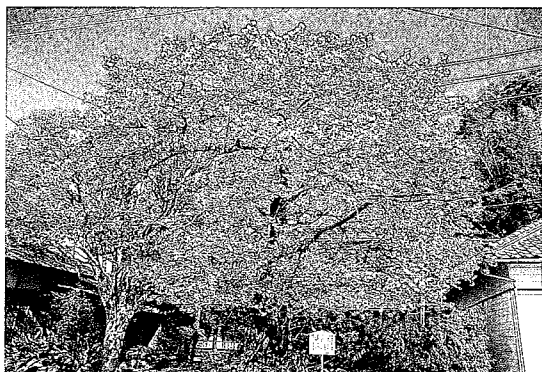
引用文献

- 1) サクラの品種に関する調査研究報告書編集委員会 (1982) 日本のサクラの種・品種マニュアル、日本花の会。
- 2) 最新園芸大辞典 (1970) 誠文堂新光社、5 : 2412.
- 3) 林 弥栄・小林義雄 (1974) サクラの植物学、日本のサクラ、誠文堂新光社。
- 4) 久保田英夫 (1974) 野生のサクラ、日本のサクラ、誠文堂新光社。
- 5) 村田治重 (1974) 静岡県有用植物園昭和49年度試験成績書 : 58-66.
- 6) 村田治重 (1986) 伊豆振興センター南伊豆農場昭和60年試験成績書 8 : 66-67.
- 7) 村田治重 (1987) 静岡農試南伊豆分場昭和61年度試験成績書 9 : 111-112.
- 8) 大井次三郎・太田洋愛 (1973) 日本桜集、平凡社。
- 9) 竹中 要 (1962) サクラの研究 (1), Bot. mag. Tokyo 75:278-287.
- 10) 竹中 要 (1965) サクラの研究 (2), Bot. mag. Tokyo 78:319-331.
- 11) 竹中 要 (1962) ソメイヨシノの合成、遺伝16 (4) : 26-31.
- 12) 竹中 要 (1963) サクラのいろいろ、遺伝17 (4) : 36-38.
- 13) 田村仁一・井山審也 (1989) 遺伝研の桜、国立遺伝学研究所。

Cherry trees blooming in early spring at southern Izu district in Japan

Harusige MURATA

1. Cherry trees (*Prunus* sp.) were investigated to find several beautiful and excellent varieties or strains that bloom from winter to early spring in Izu district of Shizuoka Prefecture located at central Japan.
2. Excellent seven varieties or strains that bloom more early than the most popular variety of cherry tree 'someiyosino' (*Prunus yedoensis* cv. somei) were selected.
3. Four cherry trees were named as new varieties 'Kawaduzakura' (*Prunus lannesiana* Wils. cv. Kwazuzakura), 'Minato zakura', 'Okichizakura' and 'Ohshima-wase'.
Three varieties, 'Kanzakura', 'Oh-kanzakura' and 'Benikanzakura' that were already registered were secondary recommended.
4. Seven varieties were investigated about distribution, character, morphology, specificity of flower and origin.
5. The most excellent variety was 'Kawaduzakura'. Because, the flower is large, pale pink and the bloom was long through February. Especially, self-fertilization was due to best result.
6. From results of investigation in the field and the examination that 'Kawaduzakura' was separated into two varieties, 'Ohsimazakura' and 'Kanzakura', with seedling reproduction. It is supposed that 'Kawaduzakura' is the hybrid among two varieties.
7. The cherry trees reproduced with seedling were observed many differences in germination time, blooming period and figure of flowers.
8. Especially, the cherry tree that germination was so early was observed the tendency of slowly growing.
9. With those reasons, vegetative reproduction was proposed the most suitable method to produce the excellent cherry trees.



カワヅサクラの原木



カワヅサクラの花房



ミナトサクラの花房



オキチサクラの花房



オオシマ早生の花房



ベニカンサクラの花房